

カトリック二俣川教会
教会だより



二十六聖人

2023年11月号

No.363 (2023年10月29日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：キリストの死を思うとき

「キリストの死を思うとき、愛は深められ、復活の信仰はわたしたちを支え、主の来臨の約束はわたしたちを希望で満たします。」

11月になって、教会は「死者の月」を迎えました。この一ヶ月は、わたし達に先立って世を去った全ての人のために祈る月です。この月、教会は、亡くなられた人々が神様の慈しみとあわれみによって、神様の永遠の命に与ることができるよう、信者の皆さんに祈りを勧めます。でも、それは、ただ、すでに眠りについた人たちのための祈りではなく、生きていたわたしたちのための祈りでもあります。その根拠として、教会が持っている伝統的な信仰、すなわち、「生者と死者の交わり」という信仰が挙げられます。それは、生きていた人たちの祈りや愛徳生活が、死んだ人たちに救いをもたらすという意味の信仰です。そして、同じく、神様の聖人たちの取次ぎによって、生きていたわたしたちも救いの恵みに与れるということでもあります。そこ

で、教会はこの一ヶ月の間、死者のために熱心に祈ることを勧めている訳です。

さて、個人的なことですが、11月が「死者の月」となっているのは、とても意味深いことではという気がします。なぜ11月なのかその次第は別にしても、世の中的には年末年始の雰囲気に入り始め、しかも、11月の末ごろにはほとんどの場合、待降節が始まるからです。そこで、考えてみたのは、この死者の月、わたしたちはただ「死」ということについて考えるだけでなく、新しい命、つまり、復活についても考えるべきであるということです。確かに、自然万物も毎年、同じ流れに沿って変わりますが、それもわたしたち人間にとっては、自分の誕生から死までの人生の流れを考えさせられるものでしょう。その万物の変化を見つめながら、人間は自分の人生の終わりの後、どういう風になるのかについて考えざるを得なくなるのは当然なことだと思います。それを思うと、ある程度、不安や思いわずらいに包まれるはずでしょう。

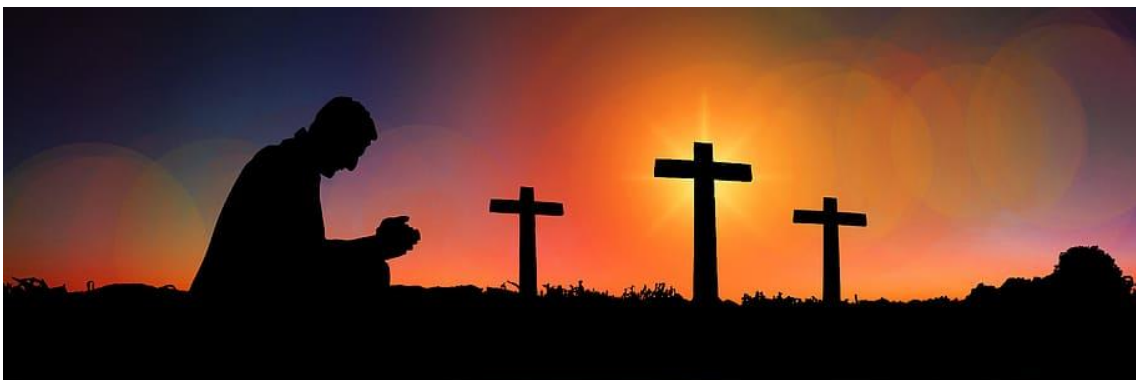
それは人間だから当たり前のことだと思えますが、信仰のあるわたしたちには、死の後のことについてすでに解答が与えられているわけです。それは言うまでもなく、死に打ち勝って復活されたイエス様のことです。

巻頭言の冒頭に書いたものを考えてみましょう。それは、年間週日の六つの叙唱の一つです。そこには、イエス様の死はわたしたちに対する神様の愛を表し、その復活はわたしたちを支える信仰となり、その来臨の約束はわたしたちの希望を深めてくれるという風に書いてあります。やはり、神様はご自分の独り子の死を持って、わたしたちへの愛をはっきりと示してくださいました。また、イエス様の復活を通しては、わたしたちをその復活への信仰に招いてくださいました。そして、イエス様の来臨の約束を通しては、その復活の命への希望を強めてくださいました。実に、わたしたちはその神様への信仰と希望と愛とが授かっていて、わたしたちはその信仰と希望と愛のうちに、生きているわけです。ですから、死というものは、わたしたちにとってただ滅びだけではありません。むしろ、死とは、神様の国で、皆が神様と交わり、

また、その永遠の命に与るための門出なのです。その門出である死を賢く準備するためにイエス様を信じているわたしたちに必要なのは、勿論、イエス様のように生きていくことでしょう。

人間を救うため、その大切な使命を果たすために、自ら人間となって、人間と交わってくださったイエス様。その交わりのしるしとしてご自分の御体と御血の食卓で、弟子たちと交わってくださったイエス様。十字架上で、ご自分の命をささげて、信じる人々を神様との交わりに招いてくださったイエス様。そのイエス様は、常に御父である神様を信じ、神様に希望を置き、神様を愛しておられたでしょう。11月は、そのイエス様のその信仰と希望、また、愛に与って世を去った全ての人のために祈る月です。同時に、わたしたちのこれからの歩みも、同じ信仰と希望と愛のうちに続けられていくことを改めて決心する月でもあると思います。この一ヶ月の間、亡くなられた人々には神様の豊かな恵みと永遠の安息が与えられるよう、また、私たちの信仰と希望と愛がもっと深められ、強められるよう、お祈り致します。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



2023年10月教会委員会報告（開催日：10月1日）

【信徒意見への対応】

皆様から頂いたご意見に対する討議結果をご報告します。

意見－1「聖体拝領後は聖歌隊が歌わず、静かな祈りの時間とすべき。歌は皆で歌える歌にして欲しい。」

・神父様ご意見

聖体拝領後に祭壇を片付けるときは沈黙を守るのが本来の姿です。ただし、拝領中に始めた歌は切りの良いところまで歌い続けます。何を歌うのが適切かは典礼委員会で検討してください。

意見－2「聖櫃内の輝きが劣化しているので張り替えて欲しい。」

聖櫃内の金箔は特に変化していないように見えますが、作成者に確認します。なお、聖櫃扉に曇りがあるようなら綺麗に磨きます。

【神父様のお話】

バチカンの聖ペトロ大聖堂外壁に、アジア系聖人としては初めて金大建（キム・デゴン）神父様（1821-1846）の聖像が設置されました。

【検討事項】

2023年バザー関連:10月8日に教会委員、旧バザー委員有志で第一回バザー企画会議を行うことになりました。

【報告事項】

1. 9月10日「敬老の集い」

10時ミサにご招待者約90名、集会室での懇談会に60～70名が参加されました。気やかな雰囲気（特に懇談会）が大変好評でした。

2. 新成人のお祝い（兼新年会）

来年1月14日に新年会を兼ねた「新成人のお祝い」を予定しています。新型コロナウイルス

感染症等の状況を見て12月教会委員会で詳細を決定します。

3. 典礼委員会

年末年始のミサの時間

12月24日（日）降誕節第4主日：7時と

10時、主の降誕（夜半のミサ）：19時

12月25日（月）主の降誕（日中のミサ）：10時

12月31日（日）聖家族：7時と10時

夜半のミサは行わない。

1月1日（月）神の母聖マリア（祭）：10時

4. 教会学校

① 月一回程度、子どもの聖歌を歌えるミサを復活させたいと考えています。

② 12月24日10時ミサのなかで聖劇を行うことを考えています。また12月17日10時ミサ後にゆるしの秘跡を予定しています。

5. キリスト教講座

11月26日（日）に第六回堅信講座を行います。神父様のお話（40分）は誰でも参加可能です。

6. 財務委員会

2024年度予算を作成中です。2023年中間決算予想を基にします。

7. 福祉委員会

9月20日に横浜療育医療センターの利用者とスタッフが当教会を訪問されました。

8. 青年会

① サマーキャンプで培った保土ヶ谷教会とのつながりを深めるため、11月12日に当教会の子どもたちと保土ヶ谷教会バザーを訪問

する予定です。未就学児は原則親同伴とします。

② 10月21～23日に青年・学生有志が韓国教会を訪問します。茶菓販売や募金で約12万円が集まりました。ご協力に感謝します。9万円は飛行機代の補助、残り約3万円は、お世話になる方々への土産代に充てる予定です。

9. 建物管理委員会

① 豪雨時に第四集会室の室内窓側で雨漏りが発生しました。次回豪雨時に詳しく調査します。

② 現在、防火シャッターが突然閉まる不具合が発生しています。煙感知器の劣化が考えられるので次回点検時に調査し、必要なら交換します。

③ 横浜マックが10月27日に本年二回目の草むしりをしてくれることになりました。

10. 共同墓地委員会

10月14日(土)に納骨式(3体)、11月3日(金、死者の日)に埋葬(1体)、

11月22日(水)に埋葬(3体)が執り行われます。

11. ヨゼフ会

9月10日敬老の集いでコーヒーを提供しました。9月24日にコーヒー光を実施しました。次回は10月8日です。

12. マリア会

① 9月10日の「敬老の集い」にマリア会運営委員とパーティー係が協力しました。

② 9月24日にボリビア支援グループが「のんびり日曜日」でジャム等を販売しました。

13. インターファミリー

9月24日にミーティングを行いました。内容はバザーの経緯と途中経過報告です。

14. 一粒会

11月23日のザビエル祭は、バスでの参加を計画しています。高校生以下は無料、成人は2千円の予定です。

以上

二俣川教会 ニュース

●11月23日(木・祝)にザビエル祭

東京カトリック神学院のザビエル祭。今年は数年ぶりに対面での開催となります。二俣川教会のナン神学生も、準備をして待っておられます。是非、足を運びましょう。

●二俣川教会初代主任司祭、ドバール神父様の近況

故郷のフランスにおられるドバール神父様。100歳に近いお年となられ、直近のことはお忘れになりがちですが、時折施設内を散歩されたり、穏やかな日々を送っておられるそうです。

●12月3日(日) 堅信式に向けて

現在、12名の皆さんが堅信式に向けて勉強中です。洗礼を受けて歩んで来られ、いま再びご自分の信仰と向き合い、学び、堅信の秘跡に向けて準備を進めていらっしゃる受堅者の皆さんのためにお祈り致します。

敬老のお祝い ～ 9月10日 “再会の日”～

メインのお祝いはごミサの中で

今年の敬老のお祝いのメインはごミサの中で行われました。当日、80名以上の敬老のお祝い対象の皆様(77歳以上)と一緒にごミサを捧げることができました。対象の方皆様に紅白饅頭をお祝いとして差し上げ、ミサの終わりには、特に喜寿と米寿の方々のお祝いをしました。青年会と教会学校からのお祝いとして放映されたショートムービーは子供たちの夏の企画をまとめたもので、最後の『敬老の日、おめでとうございます。お元気で！』との肉声メッセージの部分には、わあ～という感嘆の声が湧き上がりました。米寿のアンナW.K.様のご挨拶はお気持ち溢れるもので、目頭が熱くなりました。また、姜神父様はご挨拶の中で美空ひばりの“川の流れのように”を歌われ、皆さんも思わず一緒に口ずさむ、温かなひと時となりました。



米寿のお祝いの皆様



喜寿のお祝いの皆様

ミサ後、集会室で歓談タイム



今年もコロナへの配慮で、2階集会室でのお食事を見送りました。代わりに歓談の場として集会室を開放し、多くの方がコーヒーやお茶を飲みながら久しぶりの再会の喜びを分かち合っていました。特に青年たちがお茶とコーヒーのサービスを手伝ってくださり、「教会家族」を感じる素敵な時間となりました。

二俣川教会最高齢の方々

8月の初め、昨年100歳のお祝いをして二俣川教会最高齢でいらした、ベルナデッタH.Y.様のご帰天されました。ご冥福をお祈り申し上げます。この度、新しく最高齢となられた98歳のお二人をそれぞれお祝いすることができました。クララA.A.様とグラチアH.T.様です。A様は十字架の称賛の祝日のごミサに来られ、お祝い致しました。また、少し遠方にお住まいのH様には、お祝いのカードを送らせていただきました。お二方のためにもお祈りください。



敬老のお祝いの準備にあたり、ご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

教会委員会

第 55 回 一粒会大会に参加して

第 55 回一粒会大会は、10 月 9 日（スポーツの日）に鎌倉の「清泉小学校」で開催されました。コロナ・インフルエンザ感染予防の観点から、ある程度の人数制限が設けられマスク着用が推奨されて開催され、二俣川教会から 18 名が参加しました。

大会テーマ「私たちのうちから司祭を召し出して下さい～涙のうちに種まく人は喜びのうちに刈り取る～」に沿い、講話は 4 名の新司祭から、司祭召命のきっかけ・司祭職について日々感じていること・子どもたちからの質問の応答・未来の子どもたちへのメッセージと言う形で分かち合われました。登壇された新司祭は、石渡洋行師（伊東、下田教会主任）、上杉優太郎（雪ノ下教会助任）、タン・ホアン・フィー師（雪ノ下教会助任）、水上健次師（逗子教会主任）です。4 名の新司祭のお話から召命のきっかけは、主の呼び掛けやはたらきは人によって異なり、心を拓くこと、回心することが大切なことだと改めて想いました。私たちの日々の召命にとっても大切な気づきを与えて下さいました。

子どもたちからの質問は素朴でシンプルな質問でした。4 名の神父様は、途中笑いも交えながら、とても誠実に分かり易く応えられていました。私たちの教会の子どもたちにも聞かせてあげたいと言う声が多数聞かれました。

ミサは、入祭の歌「主は水辺にたった」、拝領の歌「マラナタ」「わたしをお使い下さい」と馴染みがあり、共同祈願も第四地区の 7 教会から行われ、皆が一致して捧げることが出来たミサでした。

最後に恒例となっている司教様による司祭紹介です。横浜教区ではたらいて下さっている司祭の所属修道会・担当教会と働きを紹介してくださり、楽しく聞く事が出来ました。司教様の記憶力に感嘆します。

雨の中での一粒会大会でしたが、『天のように』の歌詞「聖霊の雨を今降りそそいでください」を思い起こさせる恵み多き大会でした。





皆で祈りましょう！

11月 は 死者の月です。下記の詩編は、教会での納棺の際に、祈りとして唱えます。
(典礼聖歌 118 番にもあります。)

詩編 130 — デ・プロフンディス (De profundis) — 深い淵より

主よ、わたしは深い淵からあなたに叫びます。

主よ、わたしの声を聞き入れ、切なる願いの声に耳を傾けてください。

主よ、もしあなたが悪に目を留められるなら、

主よ、誰が立っていられましょう。

しかし、あなたのもとには許しがあります。

それ故、人々はあなたを敬います。

主はわたしの望み、わたしの魂の望み。

わたしはその言葉を待ち望む。

夜回りが暁を待ち望むにも増して、

わたしの魂は主を待ち望む。

イスラエルよ、主を待ち望め。

主のもとには慈しみがあり、豊かな贖いがある。

主自ら、イスラエルをあらゆる悪から贖ってください。

主よ、みもとに召された人びとに、永遠の安らぎを与え、

あなたの光の中で憩わせてください。アーメン。



(「カトリック祈禱書 祈りの友」より)

11月『死者の月』にあらためて知る【病者の塗油の秘跡】

教皇フランシスコの2014年2月26日の一般謁見演説：病者の塗油の秘跡

親愛なる兄弟姉妹の皆様

今日は病者の塗油の秘跡についてお話ししたいと思います。病者の塗油の秘跡は、人間に対する神のあわれみに手で触れることを可能にしてくれます。かつてこの秘跡は「終油」と呼ばれていました。それは臨終の際に靈的な慰めを与えるものと理解されていたからです。しかし、「病者の塗油」という言い方は、神のあわれみという展望のうちに、病気と苦しみの経験に対する見方を広げるために役立ちます。

1. 病者の塗油のうちに示される神秘の深みを余すところなく表す聖書の箇所があります。ルカによる福音書の「よいサマリア人」のたとえ話です（ルカ10・30-35）。わたしたちがこの秘跡を執行するたびごとに、主イエスは、司祭を通して、苦しむ人、重病の人、また高齢者に近づいてくださいます。たとえ話は、よいサマリア人が傷に油とぶどう酒を注いで苦しむ人を介抱したと語ります。油は、毎年、まさに病者の塗油のために、聖木曜日の聖香油のミサで司教が祝福する油を思い起こさせます。これに対して、ぶどう酒はキリストの愛と恵みのしるしです。この愛と恵みは、キリストがわたしたちのためにご自分のいのちをささげたことから流れ出し、教会の秘跡生活において余すところなく豊かに表されます。最後に、苦しむ人は費用を気にせず介護を受け続けられるよう、宿屋の主人にゆだねられました。さて、宿屋の主人とはだれのことでしょうか。教会、すなわちキリスト教共同体のことです。主イエスは日々、身体と靈魂において苦しむ人をわたしたちにゆだねます。それは、わたしたちがイエスのあわれみと救いを制限なしに彼らに注ぎ続けることができるためです。

2. このような使命は、ヤコブの手紙の中に明瞭かつ正確にいられています。ヤコブの手紙はこう勧めます。「あなたがたの中で病気の方は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主がゆるしてくださいます」（ヤコブ5・14-15）。それゆえ、これはすでに使徒の時代に実行されていたのです。実際、イエスは弟子たちに、病気の人と苦しむ人にご自分と同じ愛を抱くように教え、この秘跡の特別な恵みを通じて、ご自分の名で、み心に従って、慰めと平安を与え続ける力と使命を彼らに伝えました。とはいえ、だからといって、わたしたちは、奇跡を執拗に求めたり、つねにどんな場合にもいやしが得られるかのように考える過ちに陥ってはなりません。むしろこの秘跡は、イエスが病者や高齢者の近くにいてくださることを保証します。なぜなら、すべての高齢者、すなわち、65歳以上のすべての人は、この秘跡を受けることができるからです。そしてこの秘跡を通じて、イエスご自身がわたしたちに近づいてくださるのです。

3. しかし、病人がいるときに、時としてこう考えることがあります。「司祭を呼んで、来てもらおう」。「いや、縁起がよくないから、呼ぶのはよそう」。あるいは、「司祭を呼べば、病人がこわがるだろう」。なぜこのように考えるのでしょうか。それは、司祭が到着した後は、葬式を挙げることになるという考えがあるからです。これは事実と異なります。司祭が来るのは、病者や高齢者を助けるためです。だから、司祭が病者を訪問することはとても重要です。司祭を病者のもとに呼んで、こういわなければなりません。「来て、病者に塗油を授け、彼を祝福してください」。するとイエスご自身が来て、病者を慰め、力と希望を与え、助けてくださいます。また、その罪をゆるしてください。これは本当に素晴らしいことです。病者の塗油を、タブーのように考えてはなりません。苦しみや病気のときに、自分たちが独りきりではないことを知るの、つねに素晴らしいことだからです。実際、司祭と、病者の塗油に立ち合う人々は、キリスト教共同体全体を代表します。このキリスト教共同体全体が、一つのからだとして、苦しむ人とその家族に寄り添い、彼らの信仰と希望を強め、祈りと兄弟のぬくもりをもって彼らを支えるのです。しかし、もっとも深い慰めは、秘跡のうちに主イエスご自身が現存してくださることからもたらされます。主イエスご自身がわたしたちの手をとり、かつて病気の人々になさったようにわたしたちに触れてくださいます。そして、今やわたしたちはイエスのものであり、何ものも——悪と死さえも——決してわたしたちをイエスから引き離すことができないことを思い起こさせてくださるのです。司祭を呼ぶ習慣をもちましょう。病者と——わたしは三、四日インフルエンザにかかった人のことではなく、重病の人のことをいっています——、高齢者のところに司祭に来てもらい、病者の塗油の秘跡を授け、慰めと、前に進むためのイエスの力を与えてもらいましょう。このように実行しようではありませんか。

=====

～ 天に召される道をゆつくりと準備するために ～

二俣川教会には、教会事務所の入口右の棚に『臨終・葬儀の手引き～天に召される道～』という冊子の用意があります。臨終から葬儀、その後に関することが丁寧に説明されています。そして、臨終以外のタイミングでの“病者の塗油”についてや、家族の中で1人だけ信者さんの場合のこと、「家族への覚え書き」のページもあり、役に立つものです。是非、ご活用ください。



日本語版

英語版



今年のバザーのお知らせ

今年は規模を縮小し「ふれあいミニバザー 再会/Reunited」と称して行います。日時や内容は下記の通りです。皆さま、どうぞお楽しみに！

- ☆開催日時： 2023年11月26日(日) 12時～14時半
- ☆催事内容： 餅つき、焼き鳥、外部団体の出店(クッキーなど)、手芸品、
コーヒー販売 etc.
聖堂内でも、販売以外の催し物を予定しています。



マリア会通信 No. 132

「ステラマリス帽子を編む会」からのお願いです。
今年も横浜港へ寄港する船員さん(船の上で働く人びと)へのクリスマスプレゼントを準備します。



(昨年のラッピング)

皆さまに編んでいただいた手編みの帽子とセットする品の献品のお願いです。新品のフェイスタオル(名入れ可)・歯ブラシ(使い捨て不可)・固形石鹸・手のひらに乗る大きさの日本的な品をお願いいたします。執務室横の棚の箱に入れて頂けますと幸いです。11月17日(金)にプレゼントラッピング予定です。間に合いますようよろしくお願いいたします。

マリア会 H. I.

【編集後記】

3日間の韓国での日々は本当に素晴らしくお恵み溢れる時間となりました。信仰の繋がりから生まれた想像を超えるおもてなしに、感謝の言葉も見つかりません。報告や写真は『二十六聖人』12月号や報告会にて披露させていただきます。応援し、お祈りして下さった皆様にも感謝致します。話す言葉も歴史も違う日韓の私たちですが、同じ信仰という土台の上で、また同じ空の下、ひとつの家族であること。いまそれを強く感じています。

神に感謝！！

(Y. O. 記)